

# 強気と弱気 楽天的闘病記

## がんとアルコール依存克服 大津の前田さん

近畿大准教授の前田益尚さん(62)は「大津市錦織2丁目」が、がんとアルコール依存症を克服し、職場復帰までをまとめた本「楽天的闘病論」を出版した。強気で臨んだがん治療とは対照的に、アルコール依存症では弱気になるなど自身の心情をユーモアを交えて描いている。

### 「皆の応援で生き残った」

前田さんは2007年4月に大津市内の病院で「ステージ4に近い」下咽頭がんの診断を受け、京都大学学部付属病院に入院。手術

は成功し、08年2月に退院した。がんの闘病中は大学の生の頃から続いていた飲酒を止め、退院後に再び「酒盛り」の生活に戻った。うつ症状も始まるなど体調は悪化し、13年12月に京都市左京区の病院に入院した。



がんとアルコール依存症の闘病をつづった本を出版した前田さん(大津市浜町)

がん闘病中は「アツッ、ショータイム」と叫んで手術室に向かうなど強気に振る舞った前田さん。アルコール依存症では「大学や学生にどう思われるか」と不安になり、職場復帰の意欲もなくなると弱気だった。病院の治療プログラムで断酒会に何度も参加し、同じ苦しみを持つ仲間と素直に語り合い、自分の弱さに向き合った。

大学の教壇には15年4月に戻った。現在も週1回、県断酒同好会大津支部に顔を出している。本は断酒の誓いの意味合いを込めて出版した。「僕のサバイバルの書。みんなが応援してくれて大学に復帰できた。後戻りはできない」と話す。

2086頁。2200円。  
問い合わせは発行所 丸の内出版 75(312) 07888。  
(堀田真由美)

❖ 「楽天的闘病論」(前田 益尚著)

近畿大学文芸学部准教授の著者は、2007年、進行した下咽頭がんと診断され、手術や放射線などの治療を受けた。声帯は残すことができ、職場復帰も果たせたが、その後、アルコール依存症が悪化し、13年末に緊急入院した。休職して治療と断酒に取り組み、15年春、再び教壇に戻れた。



本書では、こうした深刻な病気との闘いを、軽妙なタッチでまとめ、病や医療と上手に付き合うコツを紹介している。アルコール依存症の章では、酒に溺れるに至った経緯を幼少期からたどり、回復を目指して参加した自助グループの効用なども詳しく記している。今後は「依存症患者への誤解や偏見を解く活動にも力を入れたい」としている。(晃洋書房 2200円税別)